

令和7年度国有林モニター現地見学会の開催報告

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニター制度」を設けています。

東北森林管理局では、令和6年4月から2年間を任期として管内5県にお住まいの47名の方に国有林モニターに就任いただき、国有林野事業について理解を深めていただいた上でご意見・ご提案を頂戴しております。

こうした取組の一環として、令和7年9月2日（火曜日）、山形森林管理署管内の山形市、上山市において、令和7年度国有林モニター現地見学会を開催し、21名の方にご参加いただきました。

1. オオシラビソ林再生の取組

山形と宮城の県境に位置する蔵王地域ではオオシラビソ（別名：アオモリトドマツ）に出来る樹氷が有名ですが、平成25年秋頃から地蔵山山頂付近でトウヒツヅリヒメハマキ（蛾）の幼虫とトドマツノキクイムシによる食害が広がり、多くのオオシラビソが枯死しました。

樹氷復活に向け山形森林管理署は関係機関と協力してオオシラビソ林の再生に向けた取組を行っています。

実際に現地でオオシラビソの被害状況を確認いただいたほか、被害の少ない標高1,300～1,400m付近で採取した自生稚樹を被害の著しい山頂付近へ移植した箇所や播種試験地をご覧いただきました。

山形森林管理署より現在の取組状況をお伝えしつつ、苗木の生長には時間がかかり、オオシラビソ林の再生には長い年月と取組の継続が必要であることなどを説明しました。



オオシラビソ被害地で概要説明



播種試験地の見学

2. エリートツリー一次代検定林の見学

エリートツリーは各地の山で選抜された精英樹の中でも、特に優れたものを交配した苗木の中から選ばれた第2世代以降の精英樹のことで、成長が早く、下刈期間短縮、伐期短縮など様々な効果が見込めます。

上山市内の次代検定林でエリートツリーをご覧いただき、従来品種より花粉が少ないことや、成長が早く造林経費が抑えられることなど、林業が抱える数々の問題解決に向けて次世代優良品種の開発が行われていることを説明しました。



エリートツリー一次代検定林見学